

林業への貢献

国土の7割が森で覆われる森林大国・日本。
温暖な気候や豊富な降水量によって国土は緑に彩られています。
しかし、主に戦後に植林された森林の4割を占める人工林の多くは、木材価格の低迷や林業担い手の減少により、荒れ果てた森に変わろうとしています。
このままでは貴重な資源である森林も危ないのです。
農林中央金庫は、「公益信託 農林中金80周年森林再生基金 (FRONT80)」および「施業共同化プロジェクトサポート事業」等を通じ、日本の森林・林業の再生を応援しています。



つながろう！森林・林業の再生

森林再生基金 (FRONT80) が目指すもの

地球温暖化対策として、森林の有するCO₂吸収機能が注目されていますが、森林は植林されて20～30年頃が最もCO₂を吸収し、炭素を固定します。わが国では、新たに造成される森林(新規の植林、再植林)が限られていることから、CO₂削減で成果をあげるには、間伐などの森林整備が最も有効だとされています。

しかし、日本の林業地の多くは、林業家の高齢化が進行しているうえに後継者が不足し、また、森林所有者の多くが不在村者となって、手入れの行き届かない山が各地に広がっています。こうした状況を背景に、当金庫は、創立80周年を機に、平成17年3月に国内の荒廃した民有林を再生し、森林の公益性を発揮させることを目指した事業・活動に対して助成を行う「公益信託 農林中金80周年森林再生基金」を設立しました。日本の森林危機克服のための「最前線」という意味から「FRONT80」とも呼んでいます。

FRONT80の概要

助成対象事業

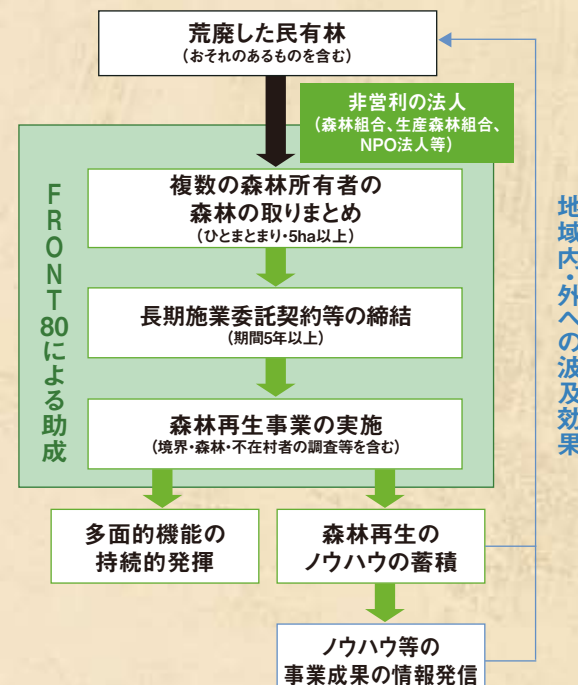
国内の荒廃した民有林の公益性を発揮させることを目指した活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンを持った活動で、かつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる事業に対して助成金が支給されます。

助成金額等

- ①助成金額は年額1億円を予定
- ②1件あたりの助成金の限度額は3,000万円
- ③助成対象者は営利を目的としない団体で法人格を有するもの等。

さらに、「フォローアップ事業」として、事業実施に際して専門家を派遣し、事業完成に向けたサポートを併せて実施するほか、7月には事業発表会を開催。

FRONT80の目指す森林再生事業



施業共同化プロジェクトサポート事業

当金庫は、森林組合系統が平成18年度から実践している「施業共同化プロジェクト」への支援を行っています。

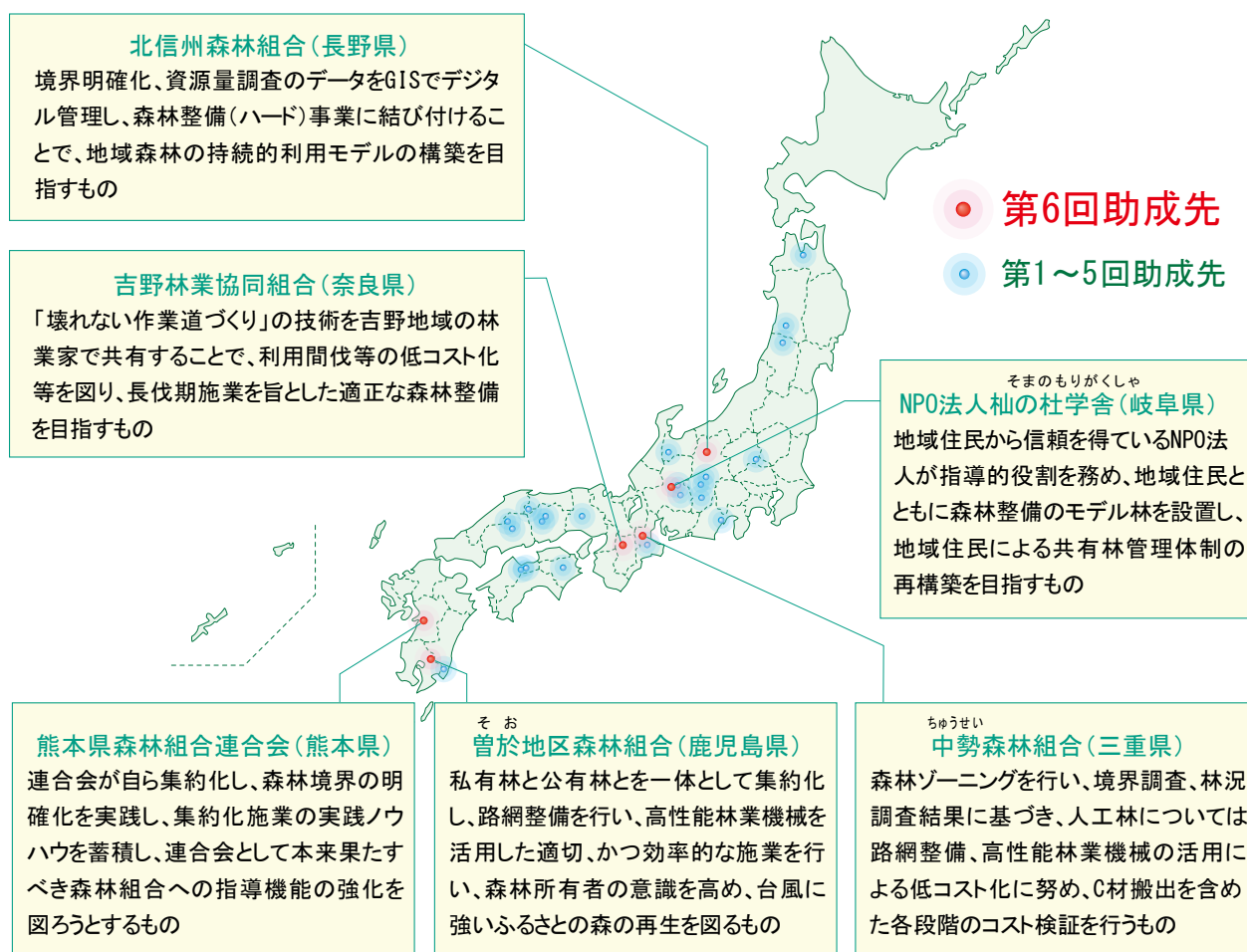
近年、森林所有者の高齢化や世代交代等で、森林における境界線の明確化および現況把握が喫緊の課題となっています。同プロジェクトでは、組合員の森林情報を詳細に把握してデータベース化することを第1ステップに、施業の集約化(大規模化)や機械化による間伐コストの低減など林業経営の改善、適正な間伐等による木材の安定供給を目指しています。当金庫は、間伐等の適正な森林整備活動の推進は、地球温暖化防止にも大きく寄与することから、平成21年度から森林組合、森林組合連合会が森林情報を管理するGIS(地理情報システム)、境界測量用の機器であるGPS(全地球測位システム)、デジタルコンパスを購入またはリースする費用の一部を助成しています。

林業への貢献

森林再生基金 (FRONT80)

これまで6年間の取り組み

森林再生基金 (FRONT80) は、既に平成17年度から6回の募集を行い、これまでに計216件の応募件数から28案件への助成が決定しました。(平成23年度(第7回)は募集を終了し、審査中です。)



施業共同化プロジェクトサポート事業

GIS・GPS・デジタルコンパス助成

平成21～22年度に森林組合、都道府県森林組合連合会が森林情報を管理するGIS、境界測量用の機器であるGPS、デジタルコンパスを購入またはリースする費用の一部を助成した組合数は右記の通りです。

機器種別	組合数	
	平成21年度	平成22年度
GIS	42	54
GPS	44	29
デジタルコンパス	33	16
GIS・GPS	21	11
GIS・GPS・デジタルコンパス	20	13
GIS・デジタルコンパス	6	4
GPS・デジタルコンパス	48	42
合 計	214	169